



2013

白杵市觀光振興戰略

臼杵市観光振興戦略の提案にあたって

私たちは、平成24年9月に中野五郎臼杵市長から臼杵市観光振興戦略会議委員として選出され、臼杵市のこれからの観光戦略について、様々な業種のメンバーとともに議論を重ねて参りました。

1年間に及ぶ議論のなかで、住民視点とお客様視点のバランスを踏まえ、観光に関わる団体や事業者だけでなく、毎日の生活のなかでお客様に接する機会がある市民も「臼杵らしいおもてなしの心」で、お客様を温かく優しく迎える環境を作ることが大切だと思っており、そのために「個」を磨き、お互いが連携を深め、共生関係を築いていくことで、お客様目線にたったサービスを提供することができると考えました。

地域の将来を担う子ども達とこれまで地域を担ってきたお年寄りの目線に立った「臼杵らしいおもてなしの心」は、そこで暮らす私たちにとっては、この臼杵が幸せを感じることのできる故郷となり、お客様にとっては「臼杵らしいおもてなしの心」を感じていただく最高の観光地となります。

臼杵では“光を観る”「観光地」だけでなく、より多くの光をより多くの時間・場所で感じていただき、元気になってエネルギーを蓄え帰っていただける、“光を感じる”「感光地」にしたいと考えています。

私たちの「個」を磨く熱い思いや観光振興への志をご理解していただき、臼杵市の観光発展のため、私たちが考えた「臼杵市観光振興戦略」の提案をこれからの観光行政に役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが、座長であります日本文理大学名誉教授の藤澤憲治先生をはじめ顧問の皆様方には叱咤激励や貴重なご意見をいただきましたことに感謝と敬意を表しまして、御礼のご挨拶といたします。

平成25年9月

臼杵市観光振興戦略会議

委員長 安野 祐二

臼杵市観光振興戦略	1
第1章 現状と課題	2
第2章 臼杵市観光振興戦略の考え方	3
① 臼杵市観光振興戦略会議の設置について	3
② 観光戦略のビジョン	3
③ 目指す姿	3
④ イメージ図	4
第3章 基本理念	5
第4章 重点戦略	6
・ 重点戦略1	6
「臼杵らしいおもてなしの心」を育てる	6
基本施策1 「おもてなしの心」を育てる	6
基本施策2 「おもてなしの環境」づくり	6
・ 重点戦略2	7
情報発信力の強化	7
基本施策3 わかりやすい情報の発信	7
基本施策4 誘客宣伝活動の強化	8
・ 重点戦略3	8
体験交流による滞在型観光の推進	8
基本施策5 滞在時間延長につながる仕掛けづくり	9
基本施策6 グリーンツーリズムをはじめとした滞在型観光の推進	9
・ 重点戦略4	10
地域資源の魅力向上	10
基本施策7 「臼杵の食」の魅力进行磨く	10
基本施策8 「臼杵の地域資源」の魅力进行磨く	11
基本施策9 「臼杵の四季」の魅力进行磨く	11
・ 重点戦略5	12
広域観光交流の推進	12
基本施策10 広域観光交流の推進	12
第5章 臼杵市観光振興戦略会議の今後の在り方	13
資料	15
臼杵市観光振興戦略 策定の経緯	15
臼杵市観光振興戦略会議要綱	16
臼杵市観光振興戦略会議名簿	17

臼杵市観光振興戦略

- 第1章 現状と課題
- 第2章 臼杵市観光振興戦略の考え方
- 第3章 基本理念
- 第4章 重点戦略

第1章 現状と課題

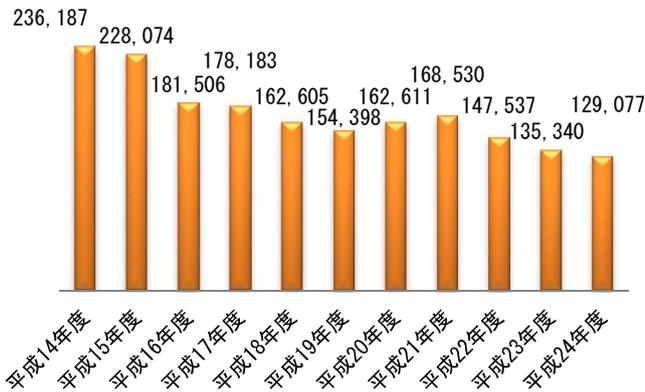
《現状》

平成14年度は、大林宣彦監督の臼杵映画なごり雪、東九州自動車道開通、臼坂バイパスの無料化、サーラ・デ・うすきのオープン、臼杵信用金庫破たんなど臼杵が劇的に変貌した年であり、中央通り商店街のアーケードが撤去され、カラータイル舗装から石畳にフルモデルチェンジされるなど町並み景観統一整備事業により、町屋風店舗に変わっていきました。

平成14年度の39万人から徐々に増え始めた観光客は、平成17年度には49万人となり、過去10年間で一番のピークを迎えました。しかし、その後の景気低迷で減少しはじめ、平成24年度にはリーマンショックによる不安定な経済状況や社会情勢、東日本大震災による影響などで39万人まで減少し、平成17年度のピーク時より10万人の減少となっています。

《表1》

臼杵石仏観覧者数



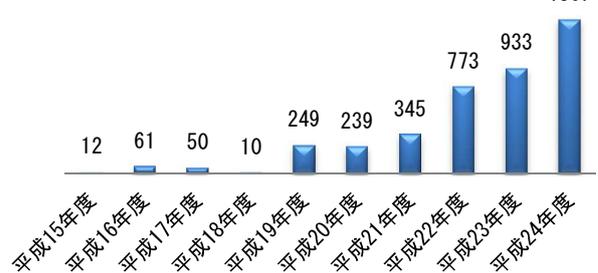
市内の観光客数は年々減少しており、《表1》のとおり主要観光施設である臼杵石仏の観光客も減少していることが分かります。

一方で、平成15年度からグリーンツーリズムの受入をはじめた野津地域では、《表2》のとおり、年々農家民泊への需要が増大しています。

特に、国内外の教育旅行がここ数年急増しており、平成15年度当初は年間12名でしたが、受入態勢の増加で、現在は10倍強の農泊利用者がいることから、今後は観光産業と連携し、さらなる成長が期待できます。

《表2》

グリーンツーリズム受入実績



《課題》

“臼杵”をイメージできるものはたくさんありますが、臼杵にしかないもの、他にないものを見つけ磨く仕組みがありません。市内には多くの観光施設が点在していますが、スポット的な観光が多く、ツアーや観光メニューとしての商品が少なく、販売促進活動も確立されていません。

「臼杵らしいおもてなしの心」で、観光客を迎える姿勢は徐々に確立されており、グリーンツーリズムによる農泊は増加傾向にあるものの、受け入れ側の態勢を含む、キャパの問題など今後クリアしていかななくてはならない問題です。

魅力ある“観光地”から“感光地”にするため、垣根を越えた異業種間の交流や他都市との観光連携が必要です。市単独での観光客誘致には限界があり、魅力的な観光地とは成しえないため、広域的な観光交流が必要で、交流人口を増やす仕組みの構築が急務です。

第2章 臼杵市観光振興戦略の考え方

① 臼杵市観光振興戦略会議の設置について

臼杵市では、平成24年度を「観光振興元年」と位置づけ、観光振興の新たなスタートの年とし、観光の新しい戦略を必要とするため、臼杵市観光振興戦略会議を設置しました。

臼杵市観光振興戦略会議のメンバーは、臼杵市長から選出された飲食店関係、農業関係者、漁業関係者やボランティア、地元企業などから、それぞれの分野で活躍されている方々で（参考資料：会議名簿）構成されており、昨年9月から約1年をかけて議論を重ね（参照資料：策定の経緯）、ビジョンや目指す姿を以下のようにまとめました。

そのうえで、具体化するための戦略として、5つの基本理念と重点戦略を掲げ、10の基本施策を策定し、「臼杵市観光振興戦略」として市長に提言することとなりました。



② 観光戦略のビジョン

1. お客様の立場に立ったおもてなしの心の育成
2. 臼杵の味力（みりよく）や四季を感じる情報の共有、発信

観光戦略のビジョンとして以上の2つを掲げることで、私たちの町に自信と誇りを持つことができ、常に謙虚な気持ちを持ち続けることで目指す姿を具体化します。

③ 目指す姿

“おもてなしの「個」を磨き、おもてなしで「個」をつなぎ、お客様をお迎えします”

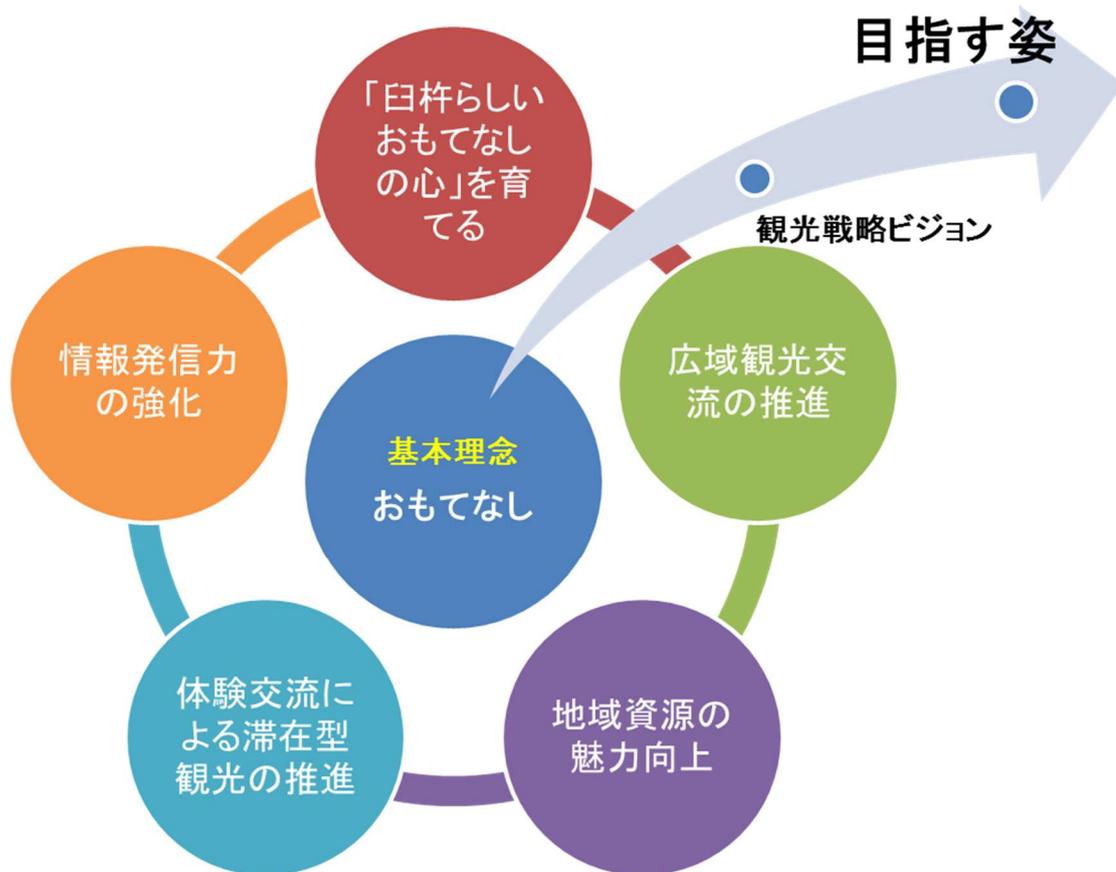
私たちの町では、団体で来られたお客様はもちろん、1人で観光に来られたお客様も安心して歩ける町を目指します。

いわゆる「個」を大事にし、受け入れ側である市民も「個」を磨き、おもてなしの「たすき」をつなぎ、「個」のお客様に満足していただける町にします。

そのために、基本理念に「おもてなし」を掲げ、5つの重点戦略と10の基本施策を策定し、臼杵市観光の目指す姿を実現します。

④ イメージ図

基本理念を中心に5つの重点戦略は共につながっています。2つの観光戦略ビジョンを持って、観光振興の目指す姿を構築します。



第3章 基本理念

お・・・おいしいがあふれる
 も・・・もう一度と思わせる
 て・・・ていねいな接客のできる
 な・・・なつかしい匂いがする
 し・・・しんせつな情報を発信する

光輝く市民力

臼杵市の“おもてなしの心”が世界に知られたのは、1600年のオランダ船デ・リーフデ号が佐志生に漂着したころにはじまります。

オランダのロッテルダムを出港したリーフデ号は、1600年（慶長5年）4月19日、豊後の国佐志生・黒島に漂着しました。漂着時の乗組員は24人で、歩行が可能な者は6人でありましたが、臼杵の人のおもてなしと手厚い看病で、イギリス人航海長ウィリアム・アダムス（三浦按針）やオランダ人航海士ヤン・ヨーステンが、江戸幕府統治下の日本でイギリス、オランダ友好のきっかけとなったのは間違いありません。リーフデとは「愛」という意味で、「愛」という船は、臼杵の住民の「愛」によって助けられました。

また、江戸時代に美濃国で、稲葉貞通公に仕えた家臣も、臼杵に入封の際、最初は“田舎”である臼杵に来るのを拒んだようですが、臼杵の人柄、土地柄の良さを知らされて臼杵に移り住んだ家臣も多かったそうです。

私たちに、昔から脈々と引き継がれてきた“おもてなしの心”、これをもって基本理念とします。

重点戦略1

「臼杵らしいおもてなしの心」を育てる

- 基本施策1 「おもてなしの心」を育てる
- 基本施策2 「おもてなしの環境」づくり

重点戦略2

情報発信力の強化

- 基本施策3 わかりやすい情報の発信
- 基本施策4 誘客宣伝活動の強化

重点戦略3

体験交流による滞在型観光の推進

- 基本施策5 滞在時間延長につながる仕掛けづくり
- 基本施策6 グリーンツーリズムをはじめとした滞在型観光の推進

重点戦略4

地域資源の魅力向上

- 基本施策7 「臼杵の食」の魅力をもく
- 基本施策8 「臼杵の地域資源」の魅力をもく
- 基本施策9 「臼杵の四季」の魅力をもく

重点戦略5

広域観光交流の推進

- 基本施策10 広域観光交流の推進



第4章 重点戦略

◆ 重点戦略1

「臼杵らしいおもてなしの心」を育てる

- ▶ 人情味あふれる市民とのふれあいは、来訪者にとって最高の観光資源であることから、関係団体や事業者だけでなく、市民をも含めた市全体での「おもてなしの心」の向上を図ります。
- ▶ 市民や関係団体、事業者、行政のそれぞれが担う役割を明確にし、連携・協力して「おもてなしの環境」づくりに取り組みます。

基本施策1 「おもてなしの心」を育てる

観光客のニーズや意識が、観光施設を見て歩くだけの観光から、地域の生活エリアでの交流を楽しむスタイルに変化し、訪問先の地域で住民と直接交流し、人とのふれあいや絆を求める傾向が高まっており、まちかどや観光地、宿泊施設での「おもてなし」の言葉や笑顔、特にその地方独特の方言は、誰もが心和み印象に残ります。

ちょっとした会釈や会話は、観光客と地域住民との心のふれあいを深める手段としても有効です。

現在も学校や地区であいさつ運動が推進され、お客様から「温かい気持ち」になるとの声をいただいておりますが、さらに日頃からのあいさつ・声かけ運動を展開し、人情味あふれる明るい「おもてなしのまち」を目指します。

臼杵市民ひとりひとりが、町が愛せるよう「臼杵の良さ（観光、食、歴史など）」を市民に啓発します。

市民や関係団体、事業者、行政それぞれが担うべき役割や機能を再確認し、観光推進のための先導役の設置や各種部門におけるスペシャリストの育成など、人づくりや人材確保に取り組みます。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	おもてなしの心を磨く	そこに住んでいる市民が臼杵のことを知って、魅力を感じる事が重要です。また、市外や国外から臼杵の魅力を発信するために県内の大学と連携し、農泊や観光客の通訳ボランティアとして活動してもらうような仕組みづくりを行います。	・「達人の認定制度」の実施	市内全域
			・商店街などの研修実施(マナー研修、エレガンス研修)	各商店街ほか
			・人材のネットワーク化	市内全域
			・大学連携農泊体験事業	農泊受け入れ家庭
2	おもてなしの心を育む	臼杵の魅力を将来、臼杵を担う子どもたちに伝え、受け継ぐための臼杵独自の「もてなしの心」を養います。臼杵市がどのように観光行政を考えるかで企業の取組み方も違ってきます。	・教育委員会との連携(ちびっ子ガイド交流)	市内全域
			・子どもネットワーク事業	市内全域
			・臼杵学講座	市内全域
			・企業との連携・協力体制の強化	市内全域
			・市民声掛け運動	市内全域

基本施策2 「おもてなしの環境」づくり

旅先で一番必要な情報を1ヶ所で集約し、発信するための観光交流センター（仮称）は、いわば「コンシェルジュ」的な役割を担います。この観光交流センター（仮称）を核として、今ある資源を集約また活用し、お客様ともてなす側双方の感動を共有します。

おもてなしの心で日本人観光客や外国人観光客に対して、道案内や食事処を紹介する“のれん”を軒先につるした店舗や家を増やし、町歩き看板も充実させ、市全体でおもてなしの環境を整えます。

また、誰でも安心して飲食ができるように、夜の臼杵の街を楽しんでいただくためのスポットマップを作ります。熟年層に対しては、石仏観光や町並み観光に来たことのある方に対して、昔懐かしい思い出を体験していただくようにします。外国人観光客に対しても、英語表記のパンフレットの作成や外国人語で対応できる店の一覧表及びマップを作成します。

それぞれのターゲットに対しての商品開発やイベントを実施することで、すべての世代で楽しみ、感動する「臼杵」を目指します。

観光客の利便性の向上を図るため、東九州自動車道の佐伯～蒲江間開通やフェリーを利用して来る方を見据え、誘導サインの整備や観光説明板の多言語表記、自転車を活用した周遊性の向上、バリアフリー対応などを進め、誰にでも親切な観光地づくりを進めます。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	おもてなし体制の確立	趣のある町並みと海の幸、山の幸などの豊富な食材がある臼杵ですが、その情報を集中的に管理するため観光交流センターを拠点として位置づけます。おもてなしの案内サービスとして協力していただける店舗や家に「のれん」を設置し、町全体でおもてなしを表現します。	<ul style="list-style-type: none"> 観光交流センターの情報拠点化 コンシェルジュ(総合窓口)の設置 のれん案内設置(日本人用、外国人用) 英語表記の店舗パンフレット作成 臼杵独自の外国語看板設置 	<ul style="list-style-type: none"> 観光交流センター 二王座周辺 二王座周辺 市内観光地 市内観光地
2	うすき寄り道ガイド	観光客は観光客用の店に行くのではなく、地元の人がたくさん行く店の情報を求める傾向があります。地元の魚や食材、穴場の店を紹介する情報発信を考えます。	<ul style="list-style-type: none"> 穴場スポット情報(エリア情報) 夜の散策マップ(飲食店・スナック等) 外国人が立ち寄りやすい店の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 市内観光地 市内全域 市内全域
3	ターゲットの明確化	熟年層に対して、昔懐かしい臼杵の旅の思い出を提供するサービス商品の開発を行います。若者や子どもなど世代を超えた観光サービスの充実も必要です。	<ul style="list-style-type: none"> 未来ポスト事業(数年後の家族や自分に手紙を出すサービス) 熟年層対象の商品化(思い出の臼杵探索) 若者向けの商品開発(お酒のイベントや婚活) 子ども中心のイベント開催(竹宵子どもVerなど、臼杵で思い出づくり企画) 	<ul style="list-style-type: none"> 臼杵石仏 市内観光地 市内観光地 市内観光地

◆ 重点戦略2

情報発信力の強化

➤ 様々な機関と連携し、力のある情報を作り発信します。

基本施策3 わかりやすい情報の発信

「臼杵」の人、歴史、文化、伝統、自然環境、食など地域の素材が持つ魅力をわかりやすく、新鮮な情報で発信することが大切です。

これまで、臼杵市観光情報協会やサーラ・デ・うすき、石仏観光会館において旬の観光情報や特産品の情報提供を、観光パンフレットやホームページなどで総合的な情報を提供してきましたが、近年では、フェイスブック等に代表されるソーシャル・ネットワーキング・サービスといった新しい情報発信の手段が登場するなど、個人の情報収集方法に変化がみられ、これからはICT(情報通信技術)への対応が必要です。

今後は、情報提供だけでなく、市民もイベント情報や観光情報等を共有する必要がありますし、そういう仕組みを構築しなければなりません。

滞在型観光の誘発やリピーターを生み出すために、臼杵市観光情報協会を中心に観光交流センター(仮称)を基点とした効果的な情報提供を行います。

《重点戦略》

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	魅力ある情報発信	全ての観光客のためのパンフレット作成は必要です。この場合、すべての観光施設等を網羅したものが重要です。若者にはインターネットやスマホを活用した情報発信が必須で、ターゲットを絞った情報発信が重要です。	・鮮度の高い情報発信	全国
			・新しい臼杵市観光パンフレットの作成	市内全域
			・スマホ用アプリ構築	市内全域
			・CMの制作	県内
2	地元での情報共有	地元の人が情報を共有することが必要なことから、地元への情報発信の仕組みを構築します。	・協会の情報誌の充実	市内全域
			・CATVの活用	市内全域

基本施策4 誘客宣伝活動の強化

観光のスタイルが団体型から個人・小グループ型へと変化していることなどから、観光客のニーズの多様化に対応したきめ細かな旅行商品の開発や誘客宣伝活動が求められます。

臼杵市では旅行者、マスコミを対象とした観光商談会や首都圏デパート、ゆかりのある市町の物産市などに参加、市内の関係機関や市民団体、観光事業者と協力し、「食」や「観光」に対しての誘客に努めていきます。

また、新しい統一された臼杵の“ふぐ”に続く第二の「食」として可能性を秘めた「タチウオ」や「エソ」「レイスケ」等の開発や、臼杵独自のキャラクターを集めた“うす（臼）”キャラ、グリーンツーリズムによる教育旅行の誘客に努めます。ひとつの仕掛けとして海外から逆輸入という形で臼杵の魅力を発信することや、臼杵市出身者、臼杵を愛する人、臼杵に縁のある著名人の協力を得ながらマスメディアを活用した「臼杵」のPRを進めます。

2020年に東京でオリンピックの開催が決定しました。オリンピック開催期間中は世界のトップアスリートたちに、臼杵の「おもてなし」を感じていただけるチャンスなので、選手村等で“うすき竹宵”を実施します。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	「食」での誘客	女性をターゲットにしたランチメニューの充実を図り、単価も安く提供します。各店舗で統一されたメニューを作り、食と観光で昼間の交流人口増加をはかります。	・リーズナブルなランチの開発	市内観光地
			・「食べる」「観る」魅力発信	市内観光地
			・統一したメニューの開発	市内飲食店
			・ランチと観光をセットにしたツアー開発	市内観光地
2	新たな誘客事業	キャラクターを用いた誘客活動と自然を全面に出したグリーンツーリズムをPRしての誘客に努めます。インターネットを使って海外から発信します。2020年の東京オリンピック誘致決定に際して、竹宵をボランティアで世界中のアスリートにお見せし、臼杵の「おもてなし」を感じてもらいます。	・うす（臼）キャラ選定（石仏、ふぐ他）	市内全域
			・年間パスポート発行（観光地）	市内観光地
			・観光応援団（東京・大阪・福岡）	東京・大阪・福岡
			・グリーンツーリズムでの誘客	主に野津地域
			・外国からの逆輸入（海外在住の臼杵出身者から臼杵の情報を発信してもらう）	海外
・東京オリンピック竹ぼんぼり設置	東京			

◆ 重点戦略3

体験交流による滞在型観光の推進

- 国宝臼杵石仏、城下町の風情を残す美しい町並み、まつりや伝統行事、豊後水道を望むリアス式海岸、緑豊かな自然、野山の幸があります。こうした地域の特性を活用し、滞在時間の延長につながるような散策ルートや仕掛けづくりを行い、滞在型観光を推進します。
- 豊かな自然に恵まれた「臼杵」は四季折々の景観があり、その魅力を活かして各種イベントやまつりを充実させ、「臼杵」でしか味わえない最高のひとときを提供します。

基本施策5 滞在時間延長につながる仕掛けづくり

「臼杵」のまちなかは、江戸時代からの迷路のような通りと古い町並みが残る城下町で、臼杵城址をはじめとして、八町大路や二王座歴史の道、稲葉家下屋敷など歴史的・文化的な観光資源、まわりは自然豊かな山林や農地があります。

これらの観光資源を有効に活用し、新たな観光素材を加えた新たな散策ルートや様々な体験ツアーの構築など「臼杵」を訪れた人がゆっくりのんびり楽しめる観光を推進する必要があります。

そこで、商店街や飲食店などと連携し、まちなかで見学や体験ができるメニューづくりを行い、温泉施設のPRやグリーンツーリズムの推進、婚活イベントの誘致と結んで滞在時間の延長につながる観光地づくりを目指します。

また、新しい観光素材の発掘と推進を実施し、宿泊の観光客だけではなく、日帰りの観光客にいかにも長く滞在していただけるかが重要です。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	体験ツアーの充実	臼杵にあるすべての資源を活かした体験メニューの充実を図り、新たな滞在型観光を実現します。農泊は、受け入れ側の態勢の強化も必要です。	・各種ツアーの充実	市内全域
			・グリーンツーリズム等の受け入れ体制の強化	農泊受け入れ家庭
2	新しい観光素材の推進	六ヶ迫鉱泉や薬師の湯などの温泉施設を活用し、鉱泉・温泉を組み合わせたツアーを実施します。空き店舗の活用を検討します。	・温泉施設のPR事業	温泉施設
			・空き店舗アート(まちなかアート)	市内空き店舗
3	町歩きの充実	健康思考として町歩きを楽しみながらのカロリー消費のサービスを実施します。併せて、妖怪などのミステリーツアーを実施します。	・町並み散策でカロリー表示	臼杵地域
			・市内ミステリーツアー	市内全域

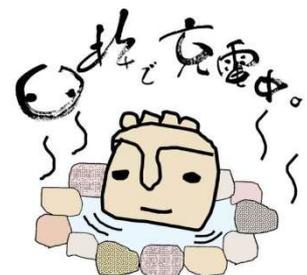
基本施策6 グリーンツーリズムをはじめとした滞在型観光の推進

都市に暮らす人々の間に、「自然」や「食」「健康」などへの関心、ふるさとへの回帰志向が高まり、余暇活動の多様化や物の豊かさよりも心の豊かさを求めて、「田舎」で余暇を過ごそうとするライフスタイルが広がっています。緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動が提唱されています。

「臼杵」では、日本の原風景を今もとどめる野津地域において、グリーンツーリズムによる教育旅行などが増加傾向にあり、農業体験や田舎暮らしの体験、六ヶ迫鉱泉にみる長期的な湯治滞在などが体験できます。

グリーンツーリズムや温泉施設、リアス式海岸を望む宿のPRを促進し、「臼杵」の魅力であるのどかな自然を満喫できる滞在型観光の推進を目指します。

また、充実した時間が過ごせるようグリーンツーリズムとブルーツーリズムの連携による取組みや、臼杵・野津地域の名所・旧跡を存分に楽しめるモデルルートの設定、まちなか観光への誘導などにより、他の観光地との違いを図ることで、「臼杵」の自然を存分に感じていただき、訪れた人の誰もが癒される観光を目指し、「臼杵で充電中。」をキャッチコピーに推進します。



《重点戦略》

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	自然と遊ぼう	グリーンツーリズムとブルーツーリズムとの連携が必要で、そのための情報発信がこれからの取組みの中で重要となります。	・ブルーツーリズムの情報手段の強化	市内全域
			・ギフトサービス(農泊体験の旅行券)	全国
			・テレビ番組制作事業	市内全域
2	「癒し」観光の実施	湯治場として有名な六ヶ迫鉱泉で、自然を体験し、ゆっくりと温泉で心と体を癒してもらう仕組みづくりを行います。	・うすき長期滞在プラン(ゆっくり、ゆ(湯)ったり)	温泉施設
			・マイナスイオンエリアの選定	市内全域

◆ 重点戦略4

地域資源の魅力向上

- 人、歴史、文化、伝統、自然環境、食などの既存の観光資源に磨きをかけ、活用するとともに、新たな観光資源の発掘に努めます。
- 国宝臼杵石仏や城下町のシンボルである臼杵城、二王座歴史の道といった一級品の観光資源の魅力をもっと磨き上げ、誘客拡大に努めます。
- 四季の魅力を開掘し、臼杵の地域資源を磨き上げ、誘客拡大に努めます。

基本施策7 「臼杵の食」の魅力をもっと磨く

豊かな自然に恵まれた「臼杵」には、美味しく、安全・安心な魅力ある食材がたくさんあります。

観光客に豊富な食材を使った料理や郷土料理を楽しめる機会を提供することが観光の満足度向上につながると考えます。

有機野菜、臼杵ふぐやカボス、甘太くんに代表されるブランド食材の提供に加え、豊後水道をイメージできたり、臼杵産品にこだわった食の創作により、誰にも喜ばれる「臼杵」の食の充実を推進するとともに、市民への周知も併せて図っていきます。

自然環境を大切にしながら自然素材の食や有機野菜、臼杵ふぐや新鮮な豊後水道の魚を中心に「世界に誇れる・健康になれる美食の町臼杵」を目指します。

「臼杵」ならではの食の魅力により、観光消費額の増加を目指します。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	臼杵産のコラボ	有機野菜と豊富な魚介類で、ランチ(昼食)等の開発や、昔からの主要産業との商品開発、夜のお客さんにリーズナブルに臼杵の食材を楽しんでいただくための晩酌セットの開発を行います。	・「有機野菜」+「海のもの」旬の情報を共有と商品開発	市内全域
			・味噌、醤油と臼杵産のつまみ開発	市内全域
			・どこでも晩酌「うすきセット」を提供	市内全域
			・低料金で食べられる魚料理の開発	主に臼杵地域
2	うすき特産品の開発	臼杵に伝わるスイーツの開発や現在ある臼杵市のお土産品の改良を行い、新たな商品として売り出します。それを生かしたブランド化を目指します。	・稲葉家に伝わるスイーツの開発	主に臼杵地域
			・既存の土産品の新しい形の商品の提案	主に臼杵地域
3	うすきブランド	臼杵の新しいブランドとして、「ほんまもの野菜」以外の開発及び認定を実施します。臼杵ふぐに続く旬の魚種の更なるPRを実施します。	・お茶を使った新商品の開発	市内全域
			・「レイスケ」、「カマガリ」の市民への告知(PR)	市内全域
			・有機野菜以外の「うすきブランド」の認定制度	市内全域
4	季節感のある安心・安全な食	臼杵の四季を感じてもらうようなヘルシーで季節感のある食を提供します。有害鳥獣である「鹿肉」「猪肉」を使った「ジビエ」料理の研究・開発も実施します。	・オーガニックレストラン	主に野津地域
			・四季を感じる伝統料理	市内全域
			・ヘルシーな「ジビエ」料理の研究	主に野津地域

基本施策8 「臼杵の地域資源」の魅力を磨く

戦国時代に活躍した大友宗麟公の重要な拠点であった臼杵城址やその時代から変わらない町割りをはじめ歴史的な町並み資源があります。

また、平安～鎌倉時代に作られた国宝臼杵石仏、“とんち”で有名な吉四六（きつちよむ）さんこと野津町の廣田吉右衛門。近代においては、文学者：野上弥生子や国文学者：吉丸一昌、三菱合資会社支配人：荘田平五郎など多くの人物を輩出しており、歴史的建造物や先哲、記念館やその人ゆかりのスポットなどの資源が挙げられます。

また、味噌・醤油などの醸造業も昔から盛んな地域で、臼杵を代表する産業のひとつです。肥沃な大地には安全・安心な農作物が育ち、今もなお伝統ある産業や農業は私たちの生活を支えています。

「臼杵」には、磨けば光り輝く「歴史」や「文化」「産業」があり、これらが持つ魅力を最大限に引き出し、線に結ぶことで、新たな観光ルートの提供につなげていきます。

そのなかでも、城下町のシンボルともいえる臼杵城址、町八町地域や国宝臼杵石仏、国内最大規模の下藤地区キリシタン墓地については、観光資源としての大きな魅力を有していることから、より一層磨きをかけて魅力を引き立たせます。

さらに、地域の人に愛されている佐志生の黒島や津久見島、市民であれば誰もが一度登ったことのある鎮南山、戸屋平や久保ん谷の湧水など、観光客から知られていない隠れた資源にも光を当て、新たな観光資源としての魅力を引き出していきます。

1600年に佐志生に漂着し、オランダとイギリスの交流のきっかけとなったウィリアム・アダムズこと三浦按針。三浦按針の目から見た、戦国時代を中心とした大河ドラマの制作に向けての働きかけを“按針ゆかり”の自治体と一緒に進めていきます。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	臼杵の文化資源	それぞれお互い引き継いできた文化を連携し、新たな観光資源とします。 町八町及び二王座については江戸期より変わらぬ町割なので、整備してPRを行います。 三浦按針にスポットを当て、按針目線の大河ドラマ制作を関係自治体と共に交渉します。	<ul style="list-style-type: none"> ・臼杵偉人マップ ・吉丸記念館までの「早春賦」を奏でる仕掛けづくり ・ビュースポットの選定とPR ・吉四六さんの本 ・大河ドラマ制作交渉(三浦按針) 	<ul style="list-style-type: none"> 市内全域 吉丸記念館 市内観光地 主に野津地域 県内

基本施策9 「臼杵の四季」の魅力を磨く

「臼杵」は豊かな自然、素材に恵まれ、臼杵城址や吉四六ランドの桜、鎮南山の新緑、海水浴客で賑わう佐志生の黒島や浜公園、野津地域のホテルの群生地、白馬溪・普現寺の紅葉、城下町を彩るうすき竹宵など四季折々に魅力ある表情を見せます。自然・町並みなどをひとつの観光資源と捉えて、自然のなかでの体験や癒しを求める人々が年々増加しており、「臼杵」の豊かな自然が持つ魅力を体験、体感できるような仕組みづくりに取り組めます。

さらに、市民の生活に密着し大切にされてきた歴史・文化について、観光客の目に見えるような仕組みづくりに取り組むとともに、「臼杵」の歴史・文化を体感できる観光地などの保全や整備活動を推進します。

臼杵の誇る国宝臼杵石仏では、石仏様とともに「芝桜」や「蓮」「彼岸花」「コスモス」など四季折々の花々がお迎えする観光地を目指します。

《重点戦略》

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	臼杵の四季	四季の魅力をPRするため、臼杵石仏のハス、芝桜、菜の花の生育を強化し、石仏に行けば季節を楽しめる観光地にする必要があります。併せて季節のイベントの企画・実施が必要です。	・臼杵藩の四季めぐりの充実	市内全域
			・臼杵石仏周辺環境づくり(四季の花)	臼杵石仏
			・四季を写した「うすきんまち」写真集	市内観光地
2	四季折々の観光スポット	新たに八景ポイントを選定し、マップを作り、四季折々の風景を見せます	・「臼杵八景」の作成	市内全域
			・日本郵政と協力し、ハガキ・切手の販売	市内全域
			・八景ツアーの実施	市内全域

◆ 重点戦略5

広域観光交流の推進

- 県南地域の連携協働により、観光交流の促進に取り組みます。
- 近隣にある主要観光地との連携や、臼杵市にゆかりのある市町村と連携し、「臼杵観光」への波及効果を目指します。

基本施策10 広域観光交流の推進

東九州自動車道の延伸などの高速交通体系が整備されていくなか、国の施策は従来の観光地とよばれる狭い地域での観光振興から、都道府県を越えて全国的、広域的な視点での観光振興を重要視するようになってきました。

こうしたなか、平成28年度に東九州自動車道路が全線開通を予定していることから、北九州方面や宮崎方面からの集客、フェリーを利用した関西、四国からの人や物の流れを重視した広域的な観光交流の推進に努めます。

また、「三浦按針」など歴史的なつながりのある平戸市や二孝女のつながりのある常陸太田市など、自然や歴史・文化などにおいて関係のある市町村、共通の観光資源を共有する県内外の市町村との連携強化を図ります。

さらに、広域観光を進める中で、圏域内の市町村とそれぞれの観光資源を提供し合いながら、観光客が長時間滞在できる広域観光ルートの実現を目指します。

No.	取組事項	事業概要	事業内容	対象地区
1	近隣都市との連携	県内の人気ある観光地と連携することで、近隣都市に観光にきたお客を臼杵に誘致します。女性をターゲットにしたスイーツマップ(別府・湯布院・臼杵・八幡浜)を作成し、PRすることで、観光客の交流ができます。県内同時にイベントを実施し、スポット毎に違うテーマを持ち、観光客に楽しんでもらいます。	・スイーツマップ作成	市内全域
			・市内周遊バスとの連携	県内
			・大分県国宝の旅	県内国宝
			・各観光地の年間パスポート	県内
2	他都市との連携	歴史や文化のつながりのある都市との交流を推進します。食フェスタや定期的な観光を実施するなど、交流人口を増やします。	・全国どんぶりサミットin臼杵	市内全域
			・日蘭交流420年記念イベント	市内全域
			・交流都市子どもサミット(交流都市間で観光、産業、働く場等の子どもによるサミットを開催)	市内全域

第5章 臼杵市観光振興戦略会議の今後の在り方

1年を通して、臼杵市の観光振興について議論を交わし、顧問のご意見を聞くなどして観光振興戦略をまとめることが出来ました。

私たちの故郷には、国民の宝である“国宝 臼杵石仏”があります。国の宝を深田の里の皆さんをはじめ臼杵市民が千年もの長い間、大切に守り続けています。私たちは、国の宝をお預かりしているという謙虚な気持ちを継続することが大切だと思っており、その気持ちはこれからも守り続けなければならない「臼杵らしいおもてなし」の原点だと思います。



臼杵市観光振興戦略会議としては、提案した観光振興戦略を実現可能にするための仕組みづくりや実施に向けた取り組みのため、継続し大切に守っていくための新たな組織が必要であると考えました。

新たな組織を構成するにあたり、観光の原動力となるものは“市民力”です。観光戦略のビジョンを掲げることで、自分たちの町に自信と誇りを持つこと、謙虚な気持ちで臼杵の宝を守っていく姿勢こそが臼杵らしさであり、市民がいきいきと光り輝ける“市民力”だと思います。

今後の臼杵市観光振興戦略会議の在り方については、観光の拠点となる観光交流センター（仮称）を中心に、行政や観光情報協会等の垣根を越えた民間を核とし、観光振興に志を持つ人たちと組織を作り、市民、企業、議会、行政が一体となって臼杵市の観光を盛り上げていきたいと考えています。まさに「個」で集まり、「個」の団体でつながる組織で、観光振興をけん引します。

そうすることで“臼杵らしいおもてなしの心”をもった“市民力”が向上し、より光り輝く臼杵市が実現できると思います。



資 料

臼杵市観光振興戦略 策定の経緯
臼杵市観光振興戦略会議要綱
臼杵市観光振興戦略会議名簿

臼杵市観光振興戦略 策定の経緯

会 議	内 容	年月日
発会式	観光関係者から構成された委員により開始	平成24年9月28日
第1回作業部会 (全体会)	「臼杵市観光交流センター（仮称）」事業説明 整備計画、内容説明・意見交換	平成24年10月15日
第1回WS	第1回ワークショップ 臼杵市観光振興戦略のイメージづくり（1） 意見出し・意見分類作業	平成24年12月3日
第2回WS	第2回ワークショップ 臼杵市観光振興戦略のイメージづくり（2） 前回意見出し・意見分類に対する具体的な取組みについて	平成25年1月17日
第3回WS	前回の意見を集約した観光戦略（案）と産業観光課の戦略の 考えの確認 取組項目と具体的な取組みの作成について	平成25年2月26日
作業部会1班	重点戦略1「地域資源の魅力向上」について	平成25年3月28日
作業部会2班	重点戦略2「『臼杵らしいおもてなしの心』を育てる」、地 域資源の魅力向上」について 重点戦略4「体験交流による滞在型観光」について	平成25年4月17日
作業部会3班	重点戦略3「情報発信の強化」について 重点戦略5「広域観光交流の推進」について	平成25年4月24日
第4回WS	重点戦略別 基本施策と取組事項、具体的な取組みの乖離部分について	平成25年5月20日
第5回WS	班別の重点戦略検討（1） 取組項目と具体的な取組み（仕組みづくり、観光商品）の作 成について	平成25年6月24日
第6回WS	班別の重点戦略別検討（2） 取組項目と具体的な取組み（仕組みづくり、観光商品）の作 成について	平成25年7月9日
第7回WS	戦略（案）の検討（課題・問題点等の確認を含む）	平成25年8月5日
第8回WS	戦略（案）の検討 【顧問説明】	平成25年9月2日
第9回WS	戦略（案）の検討（最終）	平成25年9月17日
提言	市長へ提案書提出	平成25年9月30日

臼杵市観光振興戦略会議要綱

(設置)

第1条 臼杵市の「活力ある観光地づくり」を推進するにあたり、市民の声を活かしながら長期的な展望にたった観光施策を実行するため、臼杵市に対して観光戦略に係る意見・提言を行う臼杵市観光振興戦略会議（以下「会議」という。）を設置する。

(組織)

第2条 会議は観光関係者等から市長が選出する委員をもって構成し、25名以内とする。

2 会議に委員の互選により委員長を置き、委員長の指名により副委員長を置く。

3 委員長は、会務を総理し、会議を代表する。

4 副委員長は、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会議の進行を行う座長を1名置くことができる。

6 会議での提言に対する意見を聞くために、顧問を若干名置くことができる。

(任期)

第3条 委員の任期は、1年間以内とする。但し再任は妨げない。

(会議)

第4条 会議は、委員長が招集する。

2 委員長は、必要があるときは、関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(作業部会)

第5条 必要に応じ、会議に作業部会を置くとともに、関係者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 会議の庶務は、ふるさと建設部産業観光課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

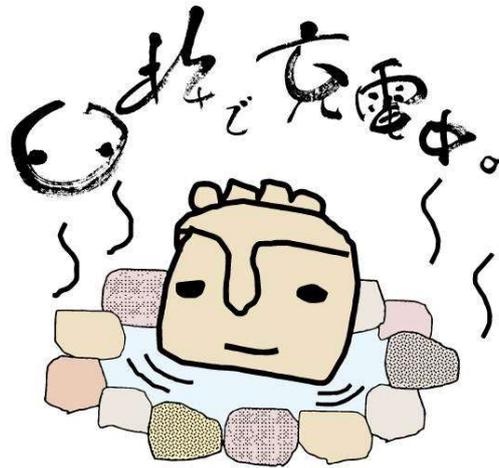
この要綱は、平成24年9月14日から施行する。

臼杵市観光振興戦略会議名簿

No.	役職	氏名	所属
1	座長	藤沢 憲治	日本文理大学名誉教授

No.	役職	氏名	所属
1	委員長	安野 祐二	ポルト蔵
2	副委員長	疋田 桃子	うすき竹宵実行委員会
3	委員	足立 敏明	朝市仲買人代表
4	委員	足立 理恵	久家本店
5	委員	穴見 清二	臼杵商工会議所青年部
6	委員	安藤 聡	臼杵市仏教会
7	委員	伊東 貴寛	磯端会議
8	委員	伊東 貞一	フンドーキン醤油株式会社
9	委員	宇佐美 裕之	臼杵石仏代表
10	委員	吉良 直喜	臼杵商工会議所
11	委員	吉良 雅子	臼杵市料飲店組合
12	委員	後藤 慎太郎	二葉会（野津農業後継者）
13	委員	古谷 美和	ボランティアガイド代表
14	委員	斉藤 真歩子	臼杵市観光情報協会
15	委員	佐藤 一彦	臼杵市カボス振興協議会
16	委員	高橋 雄三	高橋製茶
17	委員	西元 則子	吉四六さん村グリーンツーリズム研究会
18	委員	橋向 賢明	富士甚醤油株式会社
19	委員	山中 健一	臼杵市商店街連合会
20	委員	山本 義博	大分県中部振興局
21	委員	山本 喜文	ふぐの郷臼杵
22	委員	山本 祐子	ふぐの郷臼杵
23	委員	渡辺 康生	臼杵ミワリークラブ

24	顧問	吉岡 勲	臼杵市議会議長
25	顧問	小手川 茂生	臼杵商工会議所 会頭
26	顧問	木梨 雅孝	臼杵市観光情報協会 会長
27	顧問	中島 究	吉四六の里観光協会 会長
28	顧問	近藤 勲公	大分県農業協同組合臼杵事業部 統括事業部長
29	顧問	平川 一春	大分県漁業協同組合臼杵支店 運営委員長
30	顧問	後藤 國利	株式会社まちづくり臼杵 代表
31	顧問	石崎 達雄	NPO法人ツーリズムうすき事務局長



臼杵市観光振興戦略

2013年9月

臼杵市観光振興戦略会議

[事務局]産業観光課